

## 1 題材名 コロコロ大きくせん！

## 2 題材の目標

- おもりの転がる動きに関心をもち、いろいろな材料やつくり方を試しながら楽しいおもちゃをつくろうとする。 (造形への関心・意欲・態度)
- おもりの転がる動きや、かぶせる容器などの特徴から、つくりたいおもちゃのイメージをもち、そのつくり方を考えることができる。 (発想や構想の能力)
- おもちゃのよりよい動きや、動きの特徴に合う装飾を工夫しながらつくりすることができる。 (創造的な技能)
- おもちゃを手にとったり、動かして遊んだりしながら、表し方や動きの面白さを感じることができる。 (鑑賞の能力)

## 3 題材について

## (1) 題材観

本題材は、小学校学習指導要領 図画工作の第1学年及び第2学年におけるA表現(2)ア「感じたことや想像したことから、表したいことを見つけて表すこと。」ならびにイ「好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら表すこと。」を受けて、試したり見付けたりしながら、自分らしい造形的な表現の追求と発見をする活動である。おもりが転がる力を利用して、コロコロ転がるおもちゃをつくる活動は、児童にとってつくりたいもののイメージがもちやすく、また、転がる動きを楽しみながらつくりことができると考える。

## (2) 児童観

本学級の児童を対象に、工作に表す活動に関する意識調査を実施した。

工作に表す活動に関する意識調査 (平成27年\*月\*日 第2学年\*組 調査人数28人)

質問事項	回 答
①図工は好きですか。	・好き 23人 ・あまり好きではない 5人 ・きれい 0人
②自分でつくりたいものを思い付くことができますか。	・自分ですぐに思い付く 18人 ・なかなか思い付かない 6人 ・自分では思い付かない 4人
③つくりたいものをどのように決めてつくっていますか。	・自分で想像したものや好きなもので 20人 ・つくりやすそうなもの 4人 ・友だちの作品を参考にして 4人

意識調査から、本学級の児童の多くは図画工作が好きであり、自分でつくりたいものを思い付けて表していることが分かる。学習の様子からも、意欲的に表現活動に取り組んでいる姿が多く見られる。しかし、意識調査から、自分ではつくりたいものがなかなか思い付かないことから、図画工作があまり好きではないとする児童がいることも分かる。また、③の調査結果から、自分の想像したものや好きなものでつくるものを決める児童が多いことが分かる。この点については、学習の様子からも、友人と積極的にかかわって新たな発想を得たり、表し方を工夫しながらつくりあげる児童が多くはないという状況が見られる。

### (3) 指導観

児童の実態を受け、本題材では題材との出会わせ方を工夫し、児童が作りたいもののイメージがもてるようにするとともに、友人とかかわり合いながら、作りたいもののイメージを広げ、表し方を工夫できるような場の設定を行う。まず、題材の導入では、おもりの転がる動きに関心をもてるよう、数種類のおもりとかぶせる容器を用意して、児童が転がる動きを十分に試すことができるようにする。このことにより児童は、自分がつくりたいおもちゃのイメージがもつことができるようになる。次に、作品の製作時には、活動の場に「小さな坂道」や「巨大坂道」を設置し、転がり方の違いなどから、形や色の組合せについて試行錯誤できる場を設定するとともに、児童同士が自由に交流できるようにする。さらに、材料を自由に使える材料コーナーを設けることにより、更に改良を加えようとする児童や、おもちゃづくりに行き詰まりを感じている児童がイメージを膨らませることができるようにしたいと考える。

## 4 学習計画

次	時	学習活動	評価の観点				評価規準, ( ) は評価方法
			関	発	技	鑑	
1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料をいろいろと試して、作りたいおもちゃのイメージをもつ。</li> <li>作りたいおもちゃの設計図をつくる。</li> </ul>	○				<ul style="list-style-type: none"> <li>おもりの転がる動きの特徴に関心を持ち、いろいろな材料や作り方を試しながら楽しいおもちゃつくろうとしている。 (観察, 対話)</li> <li>おもりの転がる動きや、かぶせる容器などの特徴から、作りたいおもちゃのイメージをもっている。(観察, ワークシート)</li> </ul>
2	① 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>おもりの転がる動きや容器などの特徴から、作りたいもののイメージを広げ、工夫しながらつくる。</li> </ul>		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>おもりの転がる動きや、かぶせる容器の特徴から、作りたいおもちゃのイメージを持ち、その作り方を考えている。 (観察, 作品)</li> <li>おもちゃのよりよい動きや、動きの特徴に合う装飾を工夫しながらつくっている。 (観察, 作品)</li> </ul>
3	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの作品で遊びながら鑑賞する。</li> </ul>				○	<ul style="list-style-type: none"> <li>おもちゃを手にとったり、動かして遊んだりしながら、表し方や動きの面白さを感じている。 (観察, 対話, 作品カード)</li> </ul>

## 5 本時の学習

### (1) 目標

おもりの転がる動きや容器などの特徴から想像を広げて、作りたいおもちゃの装飾を工夫しながらつくることができる。

### (2) 準備・資料

教師：色画用紙，厚紙，坂道用の板，空き容器，両面テープ，化学接着剤

児童：空き容器，ビー玉，乾電池，ゴムボール，ゴルフボール，ひもやモールなどの身近材料，はさみ，セロハンテープ，化学接着剤

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点（◎評価）
<p>1 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>コロコロころがって楽しいうごきをするおもちゃをつくろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・でこぼこボールはまっすぐ進まなくておもしろい。</li> <li>・くねくねしながら転がるようにしよう。</li> <li>・速く走れるものにしよう。</li> </ul> <p>2 コロコロ転がる仕組みを工夫しながら、おもちゃをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・翼をつけて速く走れるかっこいい飛行機をつくろう。</li> <li>・折り紙なら軽くていいな。</li> <li>・飾りをつけたら動かなくなった。</li> <li>・もう一つつくって、セットで動かそう。</li> <li>・動くケーキって面白いな。</li> <li>・この容器は床に引っかかって進みにくいな。</li> <li>・ゆっくり走る猫をつくろう。</li> <li>・紙粘土のでこぼこボールはいろいろ変えられて面白いな。</li> <li>・海で泳いでいるサメをつくろう。</li> </ul> <p>3 本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自が用意した材料を紹介し見せ合うことにより、おもしろい仕組みができそうだという期待感がもてるようにする。</li> <li>・前時にかいた設計図を基につくり、仕組みを自由に試しながら、さまざまな動きの面白さを実感したり、自分らしいアイデアを膨らませていけるように支援する。</li> <li>・グループになり、向かい合った席の配置にすることで、お互いに見合ったり、相談したりできるようにする。</li> <li>・グループ活動の場には、転がり方を手軽に試す「小さな坂道」を設置し、教室の中央には、長い距離を転がすことができる「巨大坂道」を設置する。</li> <li>・容器とおもりの組合せを自由に試すことを呼び掛け、転がる様子の面白さを紹介し合ったり、新しいアイデアを思い付いたりできるようにする。</li> <li>・机間指導を行い、動きを表現する言葉や、動きから連想される言葉が言えるように個別に支援する。</li> </ul> <p>◎おもりの転がる動きや、かぶせる容器の特徴から、つくりたいおもちゃのイメージをもち、そのつくり方を考えている。 (観察, 作品)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き容器、両面テープ、化学接着剤などの材料を自由に使えるコーナーを用意し紹介することで、更に改良を加えたり、おもちゃづくりに行き詰まりを感じている児童が、イメージを膨らませたりしやすくする。</li> <li>◎おもちゃのよりよい動きや、動きの特徴に合う装飾を工夫しながらつくっている。 (観察・作品)</li> <li>・活動が進まない児童には、転がる様子の感じや思い付いたことを聞いたり、友人の作品を参考にさせたりするを通して、イメージをつかむきっかけをつくる。</li> <li>・工夫してつくっている児童に作品紹介をさせることで、他の児童が、動きや装飾をもっと楽しくしようという意欲がもてるようにする。</li> <li>・児童一人一人が、できたことや課題となることを明らかにすることができるように支援するとともに、次時もおもちゃづくりをすることを知らせ、完成までの見通しがもてるようにする。</li> </ul>